

Android がスマートフォンの市場を席卷！？

酒井 寿紀 (Sakai Toshinori) 酒井 IT ビジネス研究所

スマートフォンの OS 別シェアは？

携帯電話の売り上げが伸び悩んでいる中で、勢いがいいのはスマートフォンだ。その OS 別の台数シェアは、Canalys の 2009 年第 3 四半期の統計によると、上位から順に、Symbian が 46%、BlackBerry が 21%、iPhone が 18%、Windows Mobile が 8.8%、Android が 3.5%だという。これら 5 OS で 97%強を占め、その他は 3%弱に過ぎない⁽¹⁾。

小生は 5 年前にオーム社の雑誌に、携帯電話のプラットフォームもパソコンなどと同じように今後寡占化が進むだろうと記したが、スマートフォンについてはその傾向が顕著になってきたようだ⁽²⁾。今後さらに寡占化が進むと思われるが、市場を制するのはどの OS だろうか？まず、最近の推移を見てみよう。

現状では Symbian が圧倒的なシェアを占めている。しかし、上記統計によると、2 年前の 2007 年第 3 四半期の Symbian のシェアは 68%で、Symbian はこの 2 年間にシェアを 22 ポイント落としている。

この間に最もシェアを伸ばしたのは iPhone で、この 2 年間にシェアを 3%から 18%へと 15 ポイント増やした。そして 1 年前に Android が戦列に加わり、この 1 年で 3.5%のシェアを獲得した。この Android のシェアが今後どうなるかが、当面の注目の的だ。そこで、Android 陣営の状況を見てみよう。

続々と Android を採用

Android は 2007 年 11 月にグーグルによって発表された。Android を使ったスマートフォンのトップバッターは台湾の HTC によるもので、2008 年 10 月から順次世界各国で発売された。日本でも、その後継機の NTT ドコモ版である HT-03A が昨年 7 月に発売された。

HTC に続いて昨年 6 月以降、サムスン、モトローラ、LG、デル、エイサー、グーグルが発売した。また、ソニー・エリクソン、シャープ、NEC、パナソニックなども製品を発表したり、検討中と表明したりしている。

これらの企業の中には、モトローラやエイサーのように、従来使っていた Windows Mobile を Android に切り替えたところもある。なぜ、このように多くのメーカーがスマートフォン用 OS に Android を選択したのだろうか？

なぜ Android か？

まず第 1 に、iPhone OS などが「クローズド」で、それを使うハードウェアは特定のメーカーしか作れないのに対して、Android は「オープン」で、誰でもハードウェアを開発・販売できることがある。

オープンな世界では多種多様なニーズに応える製品が現れる。Android を使ったスマートフォンには、4 インチの大型ディスプレイを備えたもの、8 メガピクセル以上のカメラを持つもの、11mm 台の薄さを誇るもの、GSM 系の回線で使えるもの、CDMA 系の回線で使えるものなどあ

り、非常にバラエティに富んでいる。1社の製品ではとてもカバーしきれない。

この品揃えの豊富さがシェアの拡大につながり、そして、それがまた新企業の参入を促して、シェアの拡大再生産が実現する。パソコンの世界で、アップルのクローズドな Mac OSの方が技術的には先行していて、優れている点が多かったが、ビジネス面でオープンな Windows に勝てなかったのも同じだ。

第2の理由は、AndroidがWindows Mobileなどと違い、オープンソースで、ユーザーが自由に変更できることだ。そのため、例えば特定の業種や業務向けのスマートフォンを容易に作ることができる。この点で、特にビジネス用に向いている。

その他の理由として、Windows Mobileなどは、次世代のスマートフォンの操作の基本になると思われるマルチタッチ・スクリーンをまだサポートしてないこともある。また、スマートフォンのメーカーにとっては、Androidが無料であることももちろん重要な点だ。

これらの理由から、各社がAndroidへと走っているのだろう。では、Androidに問題はないのだろうか？

Androidの問題は？

一つの問題は、オープンソースで自由に変更できるために、相互に通用しない

「方言」を含んだAndroidが多数できるおそれがあることだ。特定の業種向けなどに変更できる強みが逆に弱みにもなる。必要な「方言」は結構だが、「標準語」を使うべき分野にまで侵食しては困る。方言の適用範囲を厳しく規制する必要がある。

もう一つの問題は、すべてをウェブで処理しようという、クラウド指向のOSだということだ。スマートフォンでのデータ処理は大半がウェブでも片付くかもしれないが、やはり端末側で処理した方が合理的なものもあるのではなかろうか？

Androidの本格的な登場はこれからで、Androidにもこのような問題があるが、現在のところこれが今後最も有望なOSだと思われる。

- (1) “Canalys Q3 2009: iPhone, RIM taking over smartphone market”,
AppleInsider, November 3, 2009
(http://www.appleinsider.com/articles/09/11/03/canalys_q3_2009_iphone_rim_taking_over_smartphone_market.html)
- (2) 酒井 寿紀：「いつか来た道・・・携帯電話のプラットフォームはどうなる？」、
Computer & Network LAN、2005年1月号、オーム社
(<http://www.toskyworld.com/archive/2005/0501itsukakitamichi.htm>)